

商工労働部 成果報告

商工労働部長 港 道 則 男

部局達成度

			
—	13	—	14
—	7	—	8

(うち観光文化局分)

総 括

商工業の振興では、市内商業者の商圈維持・拡大のため、オールフクイLINE@やフリーペーパー、チラシ、SNS等を通じて積極的な情報発信に努めました。

また、福井市企業立地戦略に基づき、積極的な企業訪問や企業立地フェアへの出展により、企業との情報交換や関係強化に努め、企業立地の取組を進めました。

さらに基幹産業である繊維産業の振興のため、新技術や新製品の開発、国内外での販路開拓を推進したほか、福井の食の振興に向けて、都内百貨店における物産展の開催や共立女子大学でのメニュー提供などを行い、首都圏における認知度向上や販路拡大に取り組みました。

企業の労働力の確保に繋がるよう、学生や社会人等を対象に、福井で働く魅力を仕事と生活の両面から発信し、地元企業への就職を促進しました。また、若者や女性等が、能力を発揮し安心して働き続けられるよう、正規雇用化等のキャリア形成支援と職場環境の整備に取り組む企業への支援を行いました。

公営競技事業では、関東・南関東を中心に他競輪場への要請、営業活動に注力したことによる場外発売の増加や、新たにミッドナイト競輪へ参入することで、年間の車券総売上額を大幅に伸ばすことができました。

観光振興では、観光産業の振興を図るため、「福井市観光振興計画」及び「福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画」に基づき、各種施策に取り組むとともに進捗管理を行いました。

一乗谷では、旅行会社や周辺市町と連携した新規事業を実施したほか、引き続き一乗谷朝倉特急バスを通年運行するとともに、観光ガイドを活用した朝倉氏遺跡の魅力向上を図りました。まちなかでは、幕末明治福井150年博による特別展や足羽山において市民協働によるイベントを開催しました。越前海岸では、本市をメイン会場に水仙まつりを開催するとともに、民間事業者による体験イベントの掘り起こしに取り組みました。

観光おもてなし市民運動では、国体・障スポの開催にあわせ、国体ボランティアやタクシー乗務員を対象に講習会、研修会を実施しました。国際交流では、行政訪問団・市民訪問団の派遣・受入れ、グローバルフェスタの開催、福井市国際文化交流大使による地域活動等派遣を通して国際理解に努めました。インバウンドでは、福井県台湾商談会やジャパンエキスポ・パリに参加し、本市への誘客促進に取り組みました。コンベンション誘致では、コンベンション開催への支援を強化するため、県や他市町と協議し、開催助成金制度を新年度から拡充することとしました。

文化芸術活動の振興のため、市民が主体となって実施する文化芸術活動に対し支援するほか、各施設において記念特別展や企画展などを実施し、観光誘客を図りました。

新年度は、東京オリンピック・パラリンピックや北陸新幹線福井開業に向けて、引き続きまちなかの賑わいづくりをすすめるとともに、連携中枢都市圏域内の各市町と連携し観光誘客拡大に取り組んでいきます。

目標ごとの達成状況

I. 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります

商工業の振興では、市内商業者の商圈維持・拡大のため、オールフクイLINE@やフリーペーパー、チラシ、SNS等を通じて商業者や商業施設のお得な情報を積極的に発信しました。

企業立地の推進では、福井市企業立地戦略に基づき、積極的な企業訪問や東京事務所との連携による企業立地フェアへの出展などを通じて、本市の強みや立地支援制度を情報発信するなど取組を進めた結果、企業立地支援指定数の目標を達成しました。来年度も、企業訪問や企業立地フェアへの出展を東京事務所と連携して行い、企業立地を推進するほか、社会経済の動向や人口減少等の課題に対応するため、支援制度の見直しを行います。

中小企業や創業者については、金融機関及び経済団体等との情報交換を行い、市内企業者の意見や情報を収集するとともに、関係機関と連携を図りながら支援を行いました。

ものづくり・販路開拓・人材育成・設備投資等への支援件数や市内創業者数において、目標に達しませんでした。生産性向上設備投資支援補助金や先端設備等導入計画の認定により労働生産性を向上させる設備投資の促進に努めました。

来年度は、生産性向上のための設備投資を重点的に支援するとともに、ふくい嶺北連携中枢都市圏全体の経済成長に向けて、より多くの事業者の積極的な取組を支援していきます。

II. 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります

中心市街地では、再開発事業等が進むとともに、飲食業を中心に新規出店も見られるなど、北陸新幹線福井開業を見据えた民間事業者の活動が活発化しています。

このような民間主体の動きを促進するため、アップルロードやガレリアポケット等、まちなかの公共空間におけるオープンテラスやイベントにより更なる賑わい創出を図ってきましたが、歩行者通行量は目標を達成できませんでした。来年度は、まちなかの公共空間の認知度向上やハピリン等でのイベントとの連携により、来街者の回遊性向上につなげていきます。

リノベーションによるまちづくりでは、地域の価値向上につながる魅力的な出店があったほか、今年度から新たに開催した「ディスカバリー福井」では、リノベーションの新たな担い手を育成するとともに、福井独自の魅力あるまちづくりのため、目指すべき今後5年間のビジョンを策定することができました。来年度は、「ディスカバリー福井」を引き続き開催し、更なる担い手の育成とリノベーションによる出店を促進し、まちの魅力向上を図っていきます。

III. U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します

U・Iターン就職を促進するため、学生やU・Iターン希望の社会人等を対象に福井で働く魅力を仕事と生活の両面から発信した結果、就職者数は目標を達成しました。事業参加者の市内企業への就職割合が高いことから、今後も、就職支援サイト「おしごとネット」の活用や就職支援協定を締結した首都圏大学との連携強化を図ることで事業参加者を増やし、U・Iターン就職の更なる促進に取り組みます。

就労機会の創出については、奨励金等の交付のほか、就職支援のための相談会やセミナーを開催しましたが、若者や女性の就職者数は目標を達成できませんでした。

高齢者の能力を活かすため、シルバー人材センターへの支援を通じて高齢者に就業機会を提供した結果、センター会員の就業率は目標を達成しました。

ワークライフバランスの推進に取り組む企業の支援では、補助金等の交付のほか雇用管理セミナーを開催した結果、目標を達成しました。引き続き、働きやすい職場環境の整備の重要性について周知・啓発していきます。

IV. 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

ナイター場外発売に係る車券売上額については、目標数値を 17.3% 上回る成果を達成しました。

本場開催における車券売上は、7 月に開催した開設 68 周年記念「不死鳥杯」(GIII) が記録的な猛暑により、全国の競輪場への来場者が減少したことで、前年度と比較して大きく減少しました。しかし、場外発売の拡大に向け、関東・南関東を中心とした要請活動や、今年度より参入したミッドナイト競輪の開催により、年間の車券総売上額は前年度と比較して大幅に増加しました。

来年度は、第 4 回ウィナーズカップ in 福井 (GII) の開催が決定していることから、ファンサービスや新規ファン獲得に向けた各種イベント等を強化します。また、場外発売の要請活動やミッドナイト競輪の開催を引続き実施するほか、購買意欲を高めるなどの取り組みを行い、更なる売上増を目指します。

<観光文化局担当>

V. (I) 食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします

「福井市観光振興計画」及び「福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画」に基づき、各種施策に取り組むとともに進捗管理を行いました。

コンベンションについては、県内外の主催団体や旅行会社等への営業活動を行うとともに、コンベンション誘致を強化するため、県や他市町と協議し、開催助成金制度を新年度から拡充することとしました。

一乗谷では、旅行会社と連携した「一乗谷スカイランタン」、周辺市町と連携した「御酒飲帳」事業など新たな事業により誘客につなげましたが、自然災害の影響もあり観光客は減少しました。また、引き続き一乗谷朝倉特急バスを通年運行して二次交通を確保するとともに、特急バス内にガイドが乗車し、朝倉氏遺跡の魅力向上を図りました。まちなかでは、「ふくい桜まつり」や「福井フェニックスまつり」など季節ごとのイベントや、「幕末明治福井 150 年博」にて福井の先人に関する特別展、足羽山において市民協働によるイベントを開催したほか、国体・障スポの効果もあり入込数が増加しました。越前海岸では、越前海岸ならではの素材を活かした体験観光イベントに加え、民間事業者による体験イベントの掘り起こしに取り組むとともに、昨年に引き続き、水仙まつりを福井市、越前町、南越前町の 3 市町が連携して実施し、大都市圏での合同出向宣伝等を行い、越前海岸の魅力をアピールしました。リニューアル後 2 年目を迎えたガラガラ山越前水仙の里キャンプ場の利用者は増加しました。

平成 35 年の北陸新幹線福井開業などの機会を捉えて、連携中枢都市圏域内の各市町と連携し、戦略的なプロモーションに努め、通過型観光から交流滞在型観光への転換を図り、本市への観光誘客拡大を目指します。

VI. (II) 福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします

国体・障スポにあわせ、福井を訪れた方が接する機会が多い国体ボランティア、タクシー乗務員を対象におもてなし講習会を開催しました。また「観光おもてなし体験だより」で寄せられる意見のうち、福井を訪れて良かったと感じた人の割合は、昨年に引き続き9割を超えました。北陸新幹線開業に向け、今後も講習会や研修会、市民運動推進大会を通して、市民のおもてなしのレベルアップと市民運動の浸透を図っていきます。

VII. (III) 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

情報発信では、福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」を活用し、県内イベントへの出演に加え、養浩館庭園などの観光地の紹介、越前がになどの福井の食、国体・障スポ関連情報などについて、フェイスブックを活用した情報発信により、朝倉ゆめまる及び福井市のイメージアップに努めました。また、旅行会社や出版社への営業、県外への出向宣伝、観光パンフレット配布のほか、四季折々の福井を伝えるポスターを北陸新幹線沿線都市の駅構内に掲出して、福井の魅力を発信しました。

今後も、さまざまな機会を捉えた本市の更なるイメージアップと知名度向上に努めます。

VIII. (IV) 多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます

国際交流事業として実施したグローバルフェスタでは多くの市民が参加し、目標を達成しました。また、姉妹都市からの国際文化交流大使を公私立の保育園、幼稚園等に派遣するとともに、今年度から地域活動に加わり、打ち合わせ段階から各種イベントやまつりに参加して交流を深め、地域での国際理解を進めるとともに、SNSを使った本市の魅力情報発信にも取り組みました。

インバウンドでは、台湾をターゲットに現地商談会へ参加するとともに、営業活動を行いました。併せて、ヨーロッパ誘客を目的としてフランスで開催されたジャパンエキスポ・パリへ昨年に引き続き出展し、福井の観光地や伝統工芸を紹介したほか、昨年の出展をきっかけに、本市にて現地テレビ番組の撮影につながりました。

今後は、通訳ボランティア育成や無線LAN環境整備の支援など外国人観光客の受入環境整備に取り組むとともに、台湾を主なターゲットとした現地の旅行博への出展や営業活動などを通して、本市の知名度向上や誘客拡大に努めます。

IX. (V) 文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

文化芸術活動の振興のため、市文化協会主催の福井市民文化祭や童謡の日さわやかコンサートなど、市民が主体となって実施する文化芸術活動に対し支援しました。

養浩館庭園では、文化団体や地元住民、ボランティア団体等の協力を得ながら、魅力向上のためお茶席の開催やライトアップなどを実施しました。また、橘曙覧記念文学館、愛宕坂茶道美術館では記念特別展や企画展を、グリフィス記念館では絵本の朗読会やグリフィスの功績を紹介する事業を実施し、観光誘客を図りました。

観光と文化の連携強化として、歴史・文化財等を観光資源として活用するモニターツアーを実施したほか、博物館等の各施設合同による体験連携事業や企画展を開催し、体験型事業に力を入れ観光誘客に努めました。

I. 中小企業者や創業者への支援及び企業立地を推進し、地域の商工業の振興を図ります

1	商業の振興	達成度	
実 行 内 容			
目 標	市内商業者の商圏維持・拡大のため、商業者や商業施設の情報をより効果的に消費者に発信できるよう「オールフクイLINE@」の強化を図ります。		
取 組 内 容	○京福バス共同企画「ハッピーツアーキャンペーン」の実施（4/1～5/31） ・オールフクイ認知度向上のため、京福バス回数券又は定期券購入者に様々な施設で利用できる優待券を進呈 ○「オールフクイの日」の制定及びクーポンの配信（5/15～） ・毎月15日を「オールフクイの日」と制定 ・毎月15日に各商業施設で利用できるクーポンをLINE@会員向けに配信 ○本市の文化施設と連携事業を実施（6/2～） ・対象施設：美術館、郷土歴史博物館、自然史博物館、橘曙覧記念文学館、愛宕坂茶道美術館 ・LINE@会員に各文化施設の特別展・企画展の入場料割引クーポンを配信 ○周遊企画「6つのふくいの夏休み」企画の実施（7/14～8/31） ・各商業施設の夏休みイベントへの参加によるスタンプラリーを実施 ・3つ以上の施設を周遊して、抽選会に参加 ○年末年始の消費喚起のため、新聞共同広告の実施（12/26） ○福井銀行連携企画「JURACA 5%キャッシュバックキャンペーン」の実施（2/1～5/31） ・各商業施設の販売促進のため、JURACA利用者に利用金額の5%を還元		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
オールフクイLINE@会員登録数 ： 10,000 人（年度末まで）		オールフクイLINE@会員登録数 ： 5,680 人	
成 果 ・ 課 題	今年度は、毎月15日の「オールフクイの日」クーポン配信、商業施設周遊企画、他団体との連携企画などにより、オールフクイLINE@の価値向上を図るとともに、フリーペーパーやチラシ、SNS等で積極的に情報を発信し、会員獲得に努めました。 下半期に予定していた各商業施設での会員登録ブースについて、オールフクイ実行委員会での調整が遅れ実施できなかったことから、会員登録数は目標に到達できませんでしたが、年度当初の1,258人から5,680人、約4.5倍の増となり、オールフクイLINE@の情報発信力は十分に高まっています。 来年度は、LINE@会員登録ブースを商業施設に設置し、その場で会員登録をしてもらう取組を行うほか、皇位継承に伴う大型連休における共同販売促進事業など、消費者にとって魅力的な企画を継続して実施することで、会員登録数の増加を図り、市内商業者、商業施設の商圏維持・拡大につなげていきます。		

2	企業立地の推進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	福井市企業立地戦略に基づき、本市の産業の発展に資する効果的な企業立地施策に取り組みます。県外企業に対し、東京事務所と連携して展示会への出展や企業訪問を行うなど、様々な機会を活用して本市の強みを発信し誘致を図るとともに、市内企業に対しても、企業との情報交換や関係強化に努め、規模拡大に対応した企業立地を推進します。		
取 組 内 容	○企業立地支援 ・企業等に対する支援制度の情報発信 ・福井県繊維工業組合等の各種組合総会での制度周知及びパンフレット配布 ・県外企業が本市へ進出する際の空き工場及び空きオフィス、土地等に関する相談対応 ・企業立地に伴う土地利用調整にかかる市及び県関係部署との協議 ・企業立地助成金等の活用に向けた企業との協議及び企業立地支援指定 ＊企業立地支援指定数 14 件 ・空き工場、空きオフィス登録に向けた不動産会社等との協議及び登録 ＊新規登録：空き工場 3 件 空きオフィス 2 件 ○企業訪問等 ・企業訪問による情報交換や立地意向の把握 ＊432 社（県外：55 社、県内：377 社） ・「企業立地フェア」（東京ビッグサイト）でのPRブース出展（5 月） ・「福井市応援隊 第 4 回ミーティング」での企業誘致PR等（6 月） ・「坂井市産業フェア」、「2018 ゴールデンフェア」への参加による誘致活動（6 月） ・立地意向アンケート調査実施（500 社）及びアンケート結果に基づく企業への情報提供と関係強化（6 月～3 月） ・「北陸技術テクノフェア 2018」での支援制度の周知（10 月）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
企業立地支援指定数 ： 13 件（29 年度）→ 14 件（30 年度） 企業の状況把握のための訪問数 ： 408 社（29 年度）→ 420 社（30 年度）		企業立地支援指定数 ： 14 件 企業の状況把握のための訪問数 ： 432 社	
成 果 ・ 課 題	福井市企業立地戦略に基づき、製造業、成長産業、物流関連産業等の企業を中心に、積極的な企業訪問により本市の強みや支援制度のPRを行うなど、企業立地の取組を進めた結果、全ての数値指標を達成しました。 今後も、特に首都圏の企業に対しては、東京事務所と連携して「企業立地フェア」への出展や企業訪問により、本市の強みや支援制度のPRを行うなど、企業との情報交換や関係強化に取り組み、本市への企業立地を推進します。 また、支援制度について、社会経済の動向や人口減少等の課題に対応するための見直しに取り組めます。		

3	高付加価値のものづくり・販路開拓の支援	達成度	
実 行 内 容			
目 標	研究開発や販路開拓といった市内の中小企業者が求める支援を行い、中小企業者の前向きな取組を後押しします。中小企業者の人手不足の解消を図るための労働生産性を向上させる設備投資や、ものづくり企業が新技術、新製品の開発をする際の産業財産権の導入に対して重点的に支援を行うとともに、本市産業を牽引していくような事業に対して継続的に支援を行います。 特に、本市の基幹産業である繊維産業については、新技術、新製品の開発や国内外への販路開拓の取組に対して、重点的な支援を行います。 また、市内企業の優れた製品や技術力を紹介するため立ち上げた「福井市ものづくり企業緑活サイト」については、登録企業に対して有益な情報を発信するとともに、サイト登録によるメリット増大を図り、登録企業数の増加に取り組みます。		
取 組 内 容	○ものづくり・販路開拓・人材育成・設備投資等への支援件数：38 件 [ものづくり：0 件、販路開拓：18 件、人材育成：11 件、設備投資：5 件、新事業創出：4 件] ○先端設備等導入計画の認定件数：94 件 ○新事業創出支援件数：6 件 ・新事業創出支援事業：4 件 継続支援件数：4 件（27 年度採択：2 件、28 年度採択：1 件、29 年度採択：1 件） 採択事業 4 件について、11/9 及び 3/20 に選定評価委員会を開催し、それぞれ、中間評価及び年度末評価を実施 ・テキスタイルマテリアル・グローアッププロジェクト：2 件 新規採択件数：1 件 継続支援件数：1 件 10/17 及び 3/11 に事業推進ネットワークによる会議を行い、試作開発・実証試験など進捗の評価、今後の販路開拓の方向性の検討を実施 ○繊維関連販路開拓支援事業 ・国内の有力アパレルをターゲットにした展示商談会の開催支援 出展企業：10 社（2/14～15 開催（南青山 291）） 来展ブランド：30 ブランド ・海外の大規模テキスタイル展「ミラノ・ユニカ」への出展支援 出展企業：4 社（2/5～7 開催（ミラノ）） 輸出実務やトレンドなどのセミナー開催による実務支援や海外コーディネーターを活用した現地アパレルとのマッチングによる商談支援を実施 ○ものづくり企業緑活サイト ・登録企業数：149 件 企業訪問や産業展示会テクノフェアなどにおいて働きかけ		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
ものづくり・販路開拓・人材育成設備投資等への支援件数 ： 62 件（29 年度）→ 50 件（30 年度） 新技術、新製品の開発に対する支援件数（累計） ： 5 件（29 年度）→ 6 件（30 年度） 繊維関連事業者の国内外での販路開拓に係る商談成立件数 ： 1 件（29 年度）→ 5 件（30 年度） ものづくり企業緑活サイト登録企業件数 ： 142 件（29 年度）→ 200 件（30 年度）		ものづくり・販路開拓・人材育成設備投資等への支援件数 ： 38 件 新技術、新製品の開発に対する支援件数（累計） ： 6 件 繊維関連事業者の国内外での販路開拓に係る商談成立件数 ： 8 件 ものづくり企業緑活サイト登録企業件数 ： 149 件	
成 果 ・ 課 題	ものづくり・販路開拓・人材育成・設備投資等への支援については、件数は目標を下回りましたが、慢性的な人手不足を解消するため、生産性向上設備投資支援補助金や先端設備等導入計画の認定により労働生産性を向上させる設備投資の促進に努めました。来年度は、ふくい嶺北中枢都市圏域内の強みを活かした新たな価値を創出するよう、企業の連携を促しながら新製品開発や新事業創出を支援していきます。 新事業創出支援事業については、テキスタイルマテリアル・グローアッププロジェクトによる新製品開発の支援を新たに 1 件開始し、継続の 5 件と合わせ 6 件を支援しました。 繊維関連販路開拓支援事業については、国内で 5 件、海外で 3 件の商談成立となりました。今後も取引が継続するよう、フォローアップを行っていきます。 ものづくり企業緑活サイトについては、企業訪問や産業展示会において登録を呼びかけましたが、目標は達成できませんでした。来年度も引き続き、登録企業に対して有益な情報を発信するなど、サイトの内容の充実を図り、登録企業数の増加に取り組みます。		

4	起業家創出の促進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	本市における産業の活力を高めるため、創業に対しては慎重な姿勢が見られる中でも、創業の動きを活性化していく必要があることから、福井市創業支援事業計画に基づき、認定連携創業支援事業者（福井商工会議所、NPO 法人アントレセンター）や市内金融機関等との連携強化を図ります。 また、特定創業支援事業の受講者やビジネスプランコンテストの最終プレゼンテーション実施者など、創業意欲が高く、地域の課題解決や事業の発展性が見込める事業者を対象とした「熱意ある創業支援事業」を実施することで、本市の産業振興に寄与する創業への支援体制を充実します。 さらに、事業承継については、税理士等の専門家を対象とする実践的なセミナーの開催や、県の事業承継ネットワーク及び事業引継ぎ支援センターとの連携を密にすることによる相談体制の充実など、取組の強化を図ります。		
取 組 内 容	○市内での創業者 91 人 ・福井市熱意ある創業支援事業者補助金の利用件数 4 件 ・福井市創業支援資金の利用件数 30 件 ○福井市創業支援等事業計画 ・新規認定連携創業支援等事業者 3 者 （ふくい産業支援センター、日本政策金融公庫、ビジネスプランコンテスト実行委員会） ・創業支援等事業者連絡会の開催（3/12） 1 回 ○ビジネスプランコンテスト ・5/29～9/22 プラン募集 応 募：107 件 ・7/7～9/1 ビジコン・ミーティング 開 催： 4 回 ・12/22 最終選考会 来場数：120 人、グランプリ 2 名（一般、学生） ○事業承継相談 6 件 ・福井県事業承継ネットワークに加入し、連携、取り組みを強化 ○事業承継セミナーの開催 4 回 ・士業（税理士、企業診断士、行政書士等）、金融機関を対象 延べ 243 人（9/21（42 人）、10/22（56 人）、11/13（56 人）、12/18（89 人）） ※12/18 は日本政策金融公庫福井支店と共催		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
市内での創業者数 ： 76 人（29 年度）→ 100 人（30 年度） 事業承継相談件数 ： 5 件 事業承継セミナーの開催 ： 2 回（29 年度）→ 3 回（30 年度）		市内での創業者数 ： 91 人 事業承継相談件数 ： 6 件 事業承継セミナーの開催 ： 4 回	
成 果 ・ 課 題	福井市創業支援等事業計画を改定し、参画機関を拡充することで、連携強化、支援メニューの充実を図り、前年度の数値を上回ったものの、目標を下回る結果となりました。来年度は、福井市創業支援等事業計画における関係機関との更なる連携強化を通じて創業を促進することで、地域経済の発展を図ります。 事業承継については、税理士などの専門家を対象としたセミナーを金融機関等と連携し開催するとともに、福井県事業承継ネットワークや福井県事業引継ぎ支援センターと連携し、事業者に対するサポート体制の充実を図ります。		

5	農商工連携の推進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	「ふくいの恵み」の新規認定により品数を増やし品目を充実させるとともに、「おいしいふくい条例」の普及啓発や、「ふくいの恵み」認定商品の認知度向上を図る市内百貨店で「おいしいふくい大博覧会」の開催、東京事務所・農林水産部と連携した首都圏での物産展の実施などにより、福井の食の普及、振興に取り組みます。 また、県外での販路拡大を図るため、首都圏での物産展や県外の展示会などを通じて、県外の新たな取引先の獲得を目指します。		
取 組 内 容	○「ふくいの恵み」認定商品の周知、販売促進を図るため、「おいしいふくい大博覧会」を開催 ・開催場所：西武福井店 6階催事場 ・開催期間：平成30年5月30日(水)～6月4日(月) ・事業者数：28社、売上額：15,879千円 併せて、西武福井店のお中元、お歳暮ギフトに「ふくいの恵み」セットを掲載 ○物産展への出展等 ・4/14 ふくい桜まつり ・6/4～5 日本橋三越本店バイヤー来福（4事業者を訪問） ・7/11～14 日本橋三越本店 ・10/16～22 福福館17市町PRコーナー ・11/21～22 日本橋プラザイベントスペース ・3/5～3/11 福福館17市町PRコーナー ○おいしいふくい条例のPR ・上記物産展等においておいしいふくい条例をPR ○共立女子大学との連携 ・7/17 「ふくいの恵み」を用いた卒業演習 ・7/17～26 学生食堂における市産食材を使ったメニューの提供 ・11/14～23 学内のロハスカフェにおける打ち豆を使ったメニューの提供		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
市内百貨店での物産展の開催：6月 「ふくいの恵み」認定商品販売額 ：239,299千円（29年度） →350,000千円（30年度）		市内百貨店での物産展の開催：6月 「ふくいの恵み」認定商品販売額 ：297,760千円	
成 果 ・ 課 題	「おいしいふくい大博覧会」は、これまで4回開催してきた実績を踏まえながら、来場者にとって魅力的な企画の実施やレイアウトの工夫により、認定商品及び福井の食の普及・振興を着実に進めることができました。 「ふくいの恵み」認定商品は、昨年度の認定更新により品目を充実させたことやギフトへの展開などにより、販売額は増加しましたが、目標は達成できませんでした。 県外での販路拡大については、東京事務所・農林水産部との連携により、日本橋三越本店での商品販売を実施し、首都圏における販路拡大の足がかりとすることができました。 また、平成28年4月に施行した「福井の食の普及及び振興に関する条例（通称：おいしいふくい条例）」について、関連イベントの開催などを通じて、市民団体等や市内事業者に対し条例の周知を図りました。 さらに、共立女子大学との連携では、「ふくいの恵み」認定商品を用いた卒業演習や、学生食堂での福井メニュー提供などを通じて、首都圏の方々に「福井の食」のPRを行いました。 来年度は、「ふくいの恵み」認定商品をはじめとしたふくい嶺北連携中枢都市圏内の食の認知度向上を図るため、「おいしいふくい大博覧会」や首都圏の百貨店における物産展などを通じて積極的にPR活動を行うなど、福井の食の普及、振興に取り組んでいきます。		

6	金融・経営支援の充実	達成度	
実 行 内 容			
目 標	金融機関に対し融資制度を周知することで利用促進に努めます。 また、金融機関等との情報交換により、中小企業を取り巻く環境や個別の経営動向を把握しながら、中小企業者が利用しやすいよう融資制度の充実を図ります。 さらに、中小企業者の経営改善を支援するため、経営専門指導員によるフォローアップや、関係機関と連携した経営力向上事業に継続して取り組みます。		
取 組 内 容	○金融機関に対する融資制度説明会の開催 ・全金融機関総括部門への説明会（4回） ・取扱金融機関全支店対象の説明会（1回） ○金融機関及び経済団体等との情報交換の実施 ・市内金融機関、支援機関等と情報交換を実施（35回） ○中小企業者へのフォローアップの実施 ・経営専門指導員等による経営フォローアップの実施（151件） ・経営相談窓口でのフォローアップの実施（11件） ・福井商工会議所による経営力向上サポート事業の実施等（6件）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
金融機関に対する融資制度説明会の回数 ： 5回 金融機関及び経済団体等との情報交換回数 ： 29回（29年度）→ 35回（30年度） 中小企業者へのフォローアップ件数 ： 160件（29年度）→ 165件（30年度）		金融機関に対する融資制度説明会の回数 ： 5回 金融機関及び経済団体等との情報交換回数 ： 35回 中小企業者へのフォローアップ件数 ： 168件	
成 果 ・ 課 題	取扱金融機関に対して説明会を実施し、融資制度の周知・利用促進を図りました。 また、金融機関等との情報交換を実施し、中小企業の経営環境や企業動向を把握したことで、経営相談業務等に活用することができました。 今後も引き続き、経営専門指導員等による中小企業者等へのフォローアップを実施することで市内事業者の経営改善を支援するとともに、制度融資の利用状況や経営相談内容等の情報整理・分析に努め、地域経済の動向を定期的に把握し、今後の産業振興政策の展開に活かしていきます。		

II. 中心市街地における商機能等を充実し、賑わいの創出を図ります

7	⑨まちなかにおける民間主体の賑わいづくりの促進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	西武福井店横アップルロードやガレリア元町アーケードなどまちなかの公共空間を活用し、民間が主体的に行う、オープンテラス及び周辺商業者と連携した賑わいイベントなどの取組を支援することで、まちなかの賑わいづくりと回遊性の向上を促進します。		
取組内容	○まちなか公共空間「ソライロテラス」における、オープンテラスの開設（第3日曜を除く 5/13～11/25 の毎週日曜） ○「ソライロテラス」におけるモデルイベント開催（毎月第3日曜） ・5/20 福井を舞台とした映画の野外上映会 ・6/17 のど自慢ライブ ・7/15 浴衣でまち歩き ・8/19 住みます芸人お笑いライブ ・9/16 健康麻雀大会 ・10/21 海山まんなか台所（飲食イベント） ・11/18 福井エンタメ Day（音楽ライブ） ○7/29 リノベーション事業と連携した屋台制作ワークショップの開催 ○企業・団体等によるソライロテラスの利用（路上ライブ、イベント、屋台販売など）（件数 25 件、のべ 86 日間） ○「ソライロテラス」認知度向上及び利用促進のための広報（フリーペーパー掲載 6 回）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
まちなかの公共空間を活用したイベント開催 ： 20 回 アップルロード及びガレリア元町の歩行者通行量 ： 8,000 人		まちなかの公共空間を活用したイベント開催 ： 33 回 アップルロード及びガレリア元町の歩行者通行量 ： 6,655 人	
成果・課題	平成 30 年 4 月 4 日に締結した都市利便増進協定に基づき、まちづくり福井株式会社が主体となってまちなかの公共空間を「ソライロテラス」と称し、オープンテラスの開設や公共空間活用モデルイベントの実施、企業・団体の利用促進等を行いました。ハピリンでの国体・食育・ダンスイベント等との連携によるまちなか全体の回遊性向上を意識した企画や、自動車展示販売会や路上ライブでの企業・団体による利用など多くのイベントに活用され、まちなかの賑わいづくりにつなげることができました。 まちなかの全体の通行量は前年比約 9%増加したものの、アップルロード及びガレリア元町の歩行者通行量については、目標を下回る結果となりました。これは、ハピリン西側の優良建築物等整備工事の影響により、来街者の行動範囲が限定的となっていることによるものと考えられます。 来年度は、「ソライロテラス」が年間を通して賑わう場所となるよう、企業・団体へ利用を強くアピールするとともに、イベントの継続的な実施と情報発信により市民への認知度向上を図ることで、ハピリンからガレリア元町、西武福井店方面への回遊性向上に努めます。		

8	リノベーションによるまちづくりの推進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	老朽化した遊休不動産を有効活用し、地域の価値向上を図るリノベーションによるまちづくりを推進するため、既にリノベーションを行っている方を中心に、地域住民、不動産所有者、商業者等で構成されたリノベーションネットワークが行う、担い手を育成するセミナーの開催やリノベーション事業の計画策定に向けた実践型ワークショップ等の取組を支援し、地域に貢献する出店につなげます。		
取 組 内 容	○がんばるリノベ応援事業 ・出店に伴う補助件数 2 件（アウトドア用品中古販売兼コワーキングスペース、飲食業） ・相談 11 件 ○関係人口を募集する「福井とつながるセミナー」において、ディスカバリー福井への協働人材を募集（大阪会場 6 月 23 日（土）、東京会場 6 月 24 日（日）） 参加者：大阪会場 15 人、東京会場 38 人 関係人口募集者数：3 人 応募者 4 人決定 ○「ディスカバリー福井 2018」の開催（9～12 月に全 5 回のべ 10 日間） ・受講生 15 人（金融業、不動産業、クリエイター、NPO法人運営者、自営業等） ・学生スタッフ 6 人（福井大学建築都市環境工学科5人、福井工業大学デザイン学科1人） ・内容 第1回（9/1、2） まち歩きやデータ分析によるエリアの課題抽出 第2回（10/6、7） 事業計画の基礎となる地域住民座談会や街頭インタビューの実施 第3～5回（11/3、4、24、25、12/8） 3チームに分かれて事業計画策定（第4回：中間発表） 最終日（12/9） 公開プレゼンテーション（参加者137人） ○ディスカバリー福井で策定された事業計画の事業化に向けたサポートの実施 ○データブック「リノベーション未来ノート vol.1」の制作・発刊 内容・ディスカバリー福井が目指す5年後のまちの姿と実現に向けた取り組み方針を示した「5年ビジョン」 ・まちなかに関する各種調査データ ・受講生により策定された事業計画 等		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
まちなか地区におけるリノベーションの件数（累計）： ： 10 件（29 年度） → 13 件（30 年度）		まちなか地区におけるリノベーションの件数（累計）： ： 13 件	
成 果 ・ 課 題	リノベーションの対象となる物件の出店者に対し出店経費を補助する「がんばるリノベ応援事業」により、アウトドア用品の中古販売やコワーキングスペースを事業とする店舗と、女性をターゲットとした食の提供及びレンタルスペースを行う飲食店の出店につながりました。この他、前年度開催したリノベーションスクール受講生がアーティストの制作活動を支援する事業所を開業し、目標の 13 件を達成することができました。 また、今年度新たに、リノベーション事業の担い手を発掘・育成する実践型ワークショップセミナー「ディスカバリー福井」を開催しました。過去 3 回のリノベーションスクールに替え、福井でのリノベーション実践者が講師となり、国・県の事業を活用して都市人材からのアドバイスを受けながら、約 4 カ月間にわたり実施しました。これにより、サポート体制を強化できたほか、地域リサーチやデータ分析に多くの時間をかけることで、受講生は実現性の高い 3 つの事業計画を発表しました。また、北陸新幹線福井開業に向けた福井独自の魅力あるまちづくりのため、目指すべき今後 5 年間のビジョンを策定しました。 来年度は、受講生による事業計画の実現に向けたサポートを続けるとともに、ディスカバリー福井を引き続き開催し、5 年ビジョンに沿って地域の魅力向上に資する担い手の育成、リノベーションによる出店を図り、まちの魅力向上に努めていきます。		

Ⅲ. U・Iターン就職の促進や就労機会の創出を図るとともに、仕事と家庭が両立できる雇用環境づくりを推進します

9	U・Iターン就職の促進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	学生向けの事業として、市内企業で働く魅力について考えるふくいU・Iターンサマーキャンプ、企業訪問ツアー、経営者との座談会、合同企業説明会を開催します。また、保護者からの情報提供や意見が学生の就職活動に与える影響が大きいことから、保護者を対象とした就活応援セミナーや個別相談会を開催します。 社会人向けの事業として、移住を検討している家族を対象に、企業訪問や生活環境の紹介を組み合わせたツアーを開催します。開始時期を6月に早め、回数を前年度の8回から25回に大幅に増やすとともに、1泊2日の日程を1日のみの参加も可能とするなど参加しやすいよう工夫します。また、U・Iターン者を雇用する企業に対し雇用奨励金を支給し、U・Iターン就職を促進します。 就職支援サイト「ふくいおしごとネット」のリニューアルやインターネット広告の導入により情報発信を充実させます。また、東京事務所やハローワークなど県外の関係機関と連携するほか、県外大学との就職支援協定の活用により、県外における事業の広報や参加者募集を強化します。		
取 組 内 容	○学生向け事業 ・県内：合同企業説明会・面接会開催（6月、9月、12月、3月） ・県外：合同企業説明会の開催（2月～3月 東京、大阪、京都、名古屋） ・ふくいU・Iターンサマーキャンプの開催（8/19-8/24 5泊6日） ・企業訪問ツアーの開催 第1回：企業訪問（12/26） 第2回：経営者等との座談会（1/12） ○保護者向け事業 ・保護者のための個別就活相談会の開催（6月、9月、10月、11月、1月、3月 全6回開催） ○社会人向け事業 ・社会人U・Iターン就職支援ツアー「週末就活」の開催（6月～2月 17回） ・U・Iターン就職者正規雇用奨励金 9件 ○就職支援に関する協定締結 ・法政大学（6/1）、駒澤大学（11/15）との就職支援協定の締結 ○情報発信 ・「おしごとネット」リニューアル（7/1）及び東京事務所U・Iターンアドバイザーによる周知広報		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
U・Iターン就職促進事業を利用して就職した学生及び社会人の数 ： 49人(29年度) → 60人(30年度) ふくいおしごとネットのリニューアル ： 7月		U・Iターン就職促進事業を利用して就職した学生及び社会人の数 ： 63人 ふくいおしごとネットのリニューアル ： 7月	
成 果 ・ 課 題	これまでに実施した事業の参加者に対し、定期的な就職イベント情報などの発信やアフターフォローに努めた結果、就職者数は目標を達成することができました。社会人対象の事業では、就職支援ツアー「週末就活」の開始時期を1カ月早めるとともに週末に限らず参加者のニーズに合わせた日程での参加を可能としたことで、就職に結びついた参加者全員が市内企業への就職が決まっており、事業の有効性は高いことから引き続き実施していきます。 学生については、大都市圏での就職機会が拡大し県外流出が続く中、福井での就職に対する意識が低くなりつつあります。来年度は、就職支援協定を締結した大学との連携強化や、市内企業の優れた技術などをおしごとネットを通して県内外に積極的に発信するほか、雇用対策協定を締結している福井労働局や県Uターンセンターなどの、国や県の関係機関と綿密に連携をしながら取り組んでいきます。		

10	就労機会の創出	達成度	
実 行 内 容			
目 標	国のトライアル雇用やキャリアアップ助成金等を活用し、若者や女性を継続して正規雇用する中小企業に対し、奨励金等を支給し雇用の安定化に取り組みます。 キャリアアップを目指す女性を対象とした就職支援セミナーや、ハローワーク福井と連携したミニ面接会を開催します。 福井市シルバー人材センターの事業を支援し、高齢者の就労及び社会参画を促進します。		
取組内容	○若年者正規雇用奨励金 21 件 ○キャリアアップ助成金 48 件 ○就職支援セミナー（子育てママ再就職応援コース）の開催（1 月） ○就職支援セミナー（障がい者コース）の開催（10 月） ○マザーズコーナー（ハローワーク）におけるミニ面接会の開催（5 月、11 月、2 月） ○シルバー人材センターへの支援		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
就職支援事業を利用して就職した若者及び女性の数 ： 110 人(29 年度) → 120 人(30 年度) シルバー人材センター会員の就業率 ： 78.0% (29 年度) → 78.5% (30 年度)		就職支援事業を利用して就職した若者及び女性の数 ： 91 人 シルバー人材センター会員の就業率 ： 78.5%	
成果・課題	非正規雇用労働者を正規雇用労働者へと転換するキャリアアップ助成金等で、若者の正規雇用促進を図ってきましたが、減額補正により予算額の上限に達したことから、助成金等の交付件数は伸びませんでした。しかしながら、これまでの取組に加え、人手不足を背景とした正規での求人が増えており、本市での正規雇用者数は着実に増加しています。 子育てママや障がい者を対象にした就職支援セミナーでは、終了後に定期的な相談やアドバイスを実施するほか、ハローワーク福井が開催するミニ面接会につなげるなど、就職に結びつくよう継続的なアフターフォローを実施してきましたが目標を達成することができませんでした。来年度からは、連携中枢都市圏の各市町と協力しながら参加者を増やし、一人でも多くの方が就職できるよう促進します。 また、シルバー人材センターへの支援については、積極的に入会を促進するとともに多様な就業機会を提供した結果、目標の就業率を達成しました。高齢者の活躍が期待される今、シルバー人材センターと協力し、更なる就業率の向上を目指します。 今後も、労働力人口の減少や地元企業における人材不足に対応していくため、女性や障がい者、高齢者に対してきめ細やかな就職支援を行いながら、企業の労働力を確保していきます。		

11	ワークライフバランスの推進	達成度	
実 行 内 容			
目 標	ワークライフバランスの重要性や必要性について事業主の理解を深めるため、雇用管理セミナーや中小企業雇用促進相談員による企業訪問を実施します。 また、労働時間の縮減や柔軟な働き方の導入、育児・介護と仕事の両立支援、イクボスの養成など、働きやすい職場環境の整備に取り組む市内中小企業等に対して支援します。		
取 組 内 容	○キラリ輝く職場環境づくり推進事業補助金 1 件 ○育児応援企業養成奨励金 7 件 ○目指せ介護離職ゼロ推進奨励金 2 件 ○ワークライフバランスセミナーの開催（7/26） 参加企業数 44 社 ○社会保険労務士会に対する周知 6 月実施 ○おしごとネット登録企業に対する周知 6 月実施 ○中小企業雇用促進相談員による企業訪問での周知		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
ワークライフバランス推進事業による支援企業数 ： 35 件(29 年度) → 40 件（30 年度）		ワークライフバランス推進事業による支援企業数 ： 54 件	
成 果 ・ 課 題	あいおいニッセイ同和損害保険㈱との共催で、労働関係トラブルの予防や対応策など、事例を交えて説明するワークライフバランスセミナーを開催しました。想定を大幅に上回る企業の参加が得られ、多くの企業に対して職場環境改善の重要性を伝えることができました。 また、中小企業雇用促進相談員による企業訪問で、職場環境改善の意識啓発や奨励金の周知に努めた結果、ワークライフバランスの推進に取り組む企業への支援件数は目標を達成しました。 来年度も引き続き、雇用管理セミナーの開催や中小企業雇用促進相談員による企業訪問など、事業主に対する意識啓発を積極的に行うことに加え、4 月から施行される「働き方改革関連法」に伴う「長時間労働の是正」や「雇用形態に関わらない公正な待遇の確保」など、職場環境の改善に積極的に取り組む中小企業を支援するための新たな助成金を創設し、働き方改革を推進していきます。		

IV. 公営競技事業において新たな顧客の獲得と収益確保に努めます

12	競輪事業の継続	達成度	
実 行 内 容			
目 標	全国的に昼間開催からナイター競輪開催へとシフトする傾向があり、今年度はGⅠ及びGⅢグレードの一部もナイター開催への変更が決定していることから、福井競輪場でもナイター場外発売の拡充にさらに取り組み、売上額の増加を図ります。 また、競輪場への来場や新規競輪ファンの獲得を促進するため、ショッピングセンターや中心市街地での出向宣伝、各種イベント等を積極的に実施し、PRに努めます。		
取 組 内 容	【競輪開催業務等】 ○本場開催（福井市主催）13節40日開催（GⅢ：4日、FⅠ：18日、FⅡ：18日） ・開設68周年記念「不死鳥杯」（GⅢ）7月21日（土）～24日（火） 車券売上額 4,561,320千円 ○ミッドナイト競輪開催（福井市主催：奈良競輪場を借上げ）4節12日（9・10・11月） ○ナイター場外発売を16節開催、車券売上額 363,702千円 ○場外開催312日開催（うち本場開催との併売17日含む） ○要請、営業活動の強化 ・競輪事業収益向上対策協議会として場外発売の要請、営業活動を実施 8月21日（火）・22日（水）前橋競輪場・宇都宮競輪場・西武園競輪場 11月6日（火）・7日（水）立川競輪場・平塚競輪場・静岡競輪場 11月21日（水）・22日（木）広島競輪場・別府競輪場・小倉競輪場 【新規顧客獲得及びファンサービス・PR等の取組】 ○ふくいおとな博に競輪ブース設置（県産業会館：5月26日（土）・27日（日）） ・競輪場で利用できる車券引換券（500円）を120人に配布（実入場者51人） ○不死鳥杯における出向宣伝等 ・ベルでうちわと車券引換券（500円）を100人に配布（7月8日（日）：実入場者22人） ・ハピリンの大型ビジョンに開催PR動画放映（6月25日（月）～7月24日（火）） ・東京・新橋駅前SL広場（7月13日（金））及びラ・ピスタ新橋（7月14日（土））で開催PR活動を実施 ○電投者向けキャンペーンで最高10万円をキャッシュバック（当選者5名：241人参加） ○ファミチャリフェスタ開催（小学生低学年対象の自転車初乗り教室：10月14日（日）） ○ふくいけいりんフェスタ（よさこい杯）開催（初心者車券購入教室を同時開催：3月17日（日））		
数 値 指 標		目 標	
目 標		結 果 ・ 成 果	
ナイター場外発売に係る車券売上額 ：224,251千円(29年度) → 310,000千円(30年度)		ナイター場外発売に係る車券売上額 ：363,702千円	
成 果 ・ 課 題	ナイター競輪の場外発売については、16節開催し目標を17.3%上回る成果を達成しました。 全国的に特別競輪や記念競輪の売上が低調な状況の中、7月に開催した開設68周年記念「不死鳥杯」では、記録的な猛暑により全国の競輪場への来場者が減少したこと等により45億6千万円の売上で、前年度の50億9千万円と比較し5億3千万円減少（10.5%減）しました。しかし、本場開催のFⅠ場外発売場数を増加させるべく、関東・南関東を中心に要請、営業活動に注力したことや、新たに参入したミッドナイト競輪の開催により、年間の車券総売上額は前年度と比較し、16.6%増加しました。 また、日本競輪選手会福井支部の協力のもと、ファミチャリフェスタの開催や、ふくいけいりんフェスタ等を開催し、競輪場をより多くの人に親しんでもらうPRイベントを実施しました。 来年度は、第4回ウィナーズカップ in 福井（GⅡ）の開催が決定していることから、ファンサービスや新規ファン獲得に向けた各種イベント等を強化します。また、場外発売の要請活動やミッドナイト競輪の開催を引続き実施するほか、購買意欲を高めるなどの取組を行い、更なる売上増を目指します。		

V. (I) 食や自然・歴史など福井らしさで観光客を増やします

13	観光産業の振興	達成度	
実 行 内 容			
目 標	観光産業の振興を図るため、引き続き福井市観光振興計画に基づき、関係部局が連携して各種施策に取り組みます。 特に、平成 30 年度は北陸新幹線福井開業に向けた「プロモーションイベント実施計画」の策定に向けて、効果的なプロモーションやイベント等の検討を行います。 また、コンベンション誘致については、県や他市町と連携を図りながら、31 年度開催分から拡充される開催助成金制度の周知に努めるとともに、誘致拡大に向け組織体制の見直しを行います。さらに、31 年度に開催予定の第 32 回宇宙技術及び科学の国際シンポジウム（I S T S）に向けては、おもてなしの充実や受入態勢の整備を進めます。 体験交流型観光については、観光に訪れた方が五感で体験交流を楽しめるよう、飲食店や観光施設などと協力して、魅力的な観光メニューの充実を図るとともに、市内全域で楽しめるイベント「まち旅博覧会」を福井国体・障スポ大会の開催時期にあわせて開催し、市内での宿泊や滞在時間の延長、観光消費額の増加につなげていきます。		
取組内容	○学生合宿補助件数 合宿申請団体数 222 件 延べ人数 12,351 人 ○教育旅行 上砂川中学校（25 人）来訪（5/8～5/11） ○福井県コンベンション誘致促進会議 ○ふくいまち旅博覧会 説明会（5/24 参加者 28 人） ワークショップ（6/7 参加者 21 人） ブラッシュアップワークショップ（6/21 参加者 28 人）博覧会（9/28～2/28） ○観光振興計画推進委員会の開催（9/21） ○I S T S 等インバウンド受入態勢の整備 ・メニュー・パンフレット外国語表記支援 3 者 ・おもてなし英語通訳ボランティア育成事業 4 回 ・指差し会話シート 駅周辺店舗に 150 部配布 ・多言語表記ガイドライン 市 H P 公開		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
体験交流型観光メニュー数 ： 20 個（29 年度） → 30 個（30 年度） 市内宿泊者数 ： 71 万人（29 年） → 74 万人（30 年） 市内観光消費額 ： 260 億円（29 年） → 270 億円（30 年） 市内コンベンション開催件数 ： 110 件（29 年度） → 135 件（30 年度）		体験交流型観光メニュー数 ： 41 個 市内宿泊者数 ： 81 万人 市内観光消費額 ： 287 億円 市内コンベンション開催件数 ： 103 件	
成 果 ・ 課 題	体験交流メニュー数は、J R 西日本福井支店が発行する「福井旅の体験手帖ふくのね」、福井商工会議所の「福井まちなか体験」と連携した取組の結果、前年度を大きく上回る 41 のメニューが造成されました。来年度以降も、観光客入込数増加のための各種施策の実施と併せて、体験交流型観光メニューの更なる充実に取り組むことで、市内宿泊者数、市内観光消費額の拡大を目指します。 2 月の大雪災害、6 月の関西を中心とした地震災害、7 月の大雨災害及び夏場の連日の酷暑などの自然災害の影響等により、県内主要観光地の入込数も減少するなか、一乗谷朝倉氏遺跡入込数、越前海岸入込数も減少しました。こうしたなか、国体・障スポの開催、1 年間を通した旅行会社への営業活動や情報発信等の取組により、市内宿泊者数、市内観光消費額は増加しています。 コンベンション誘致については、来年度開催分から拡充される開催助成金制度の周知に努め営業活動を行いましたが、目標を達成できませんでした。今後も、拡充された開催助成金制度の周知を図りながら、継続して誘致活動に注力していきます。		

14	「一乗谷」への観光誘客と一乗谷朝倉氏遺跡の環境整備	達成度	
実 行 内 容			
目 標	日本で唯一、戦国期の城下町跡がそのまま残る日本最大の中世都市遺跡「一乗谷朝倉氏遺跡」のイメージアップを図るため、一乗谷ディスカバリープロジェクトメンバーによる情報発信を進めます。 日本一の戦国城下町のフィールドミュージアムを目指し、時代衣装を身に着けたパフォーマーによるおもてなしや、特に、福井国体・障スポ大会期間中は、復原町並エリアを越えて時代衣装着付け体験サービスを実施し、体験交流型観光メニューの充実に努めます。 また、新たに「福井・永平寺周遊滞在型観光推進計画」に基づく酒蔵周遊事業や、一乗谷・永平寺のライトアップ事業などを実施するとともに、一乗谷朝倉特急バスの通年運行により二次交通の充実を図ることで、一乗谷・永平寺エリア全体の魅力向上につなげます。 併せて、一乗谷朝倉氏遺跡の重要な遺構を後世まで保存しその魅力を観光客に伝えるため、管理及び環境整備を行っていきます。		
取 組 内 容	○時代衣装着付け体験サービス利用者数 758 人 ○一乗谷朝倉特急バス利用者 10,528 人 ○「一乗谷朝倉氏遺跡バーチャルガイド」利用者 605 件 ○越前朝倉糸桜まつり開催(4/7) 入込数 3,500 人 ○越前朝倉曲水の宴(5/5) 入込数 4,500 人 ○一乗谷スカイランタン(6/9・6/10) 参加者数 1,320 人 ○越前朝倉戦国まつり・越前朝倉万灯夜(8/25・8/26) 入込数 30,000 人 ○一乗谷・東郷魅力体感ツアー(まち歩き)(10回) ○戦国城下町生活再現事業(4/28～5/13、9/15～10/14<土日祝のみ>) 朝倉氏遺跡活用推進協議会 ○一乗谷朝倉特急バス内へのガイド乗車(8/25～8/26、9/15～10/14) ○バーチャルガイド割引券の配布(8/25～8/26、9/15～10/14) 利用者数 8 人 ○一乗谷レストランの再開(9/2) ○朝倉トレイルラン2018(9/16) 参加者数 1,000 人 ○戦国城下町生活再現事業(9/15～10/14<土日祝のみ>) 朝倉氏遺跡活用推進協議会 ○酒蔵周遊事業(10月～3月) 福井・永平寺・奥越エリアと連携し、ガイドブック「御酒飲帳」を3,000部作成 ○朝倉膳料理教室(2回:11/10、12/8)		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
時代衣装着付け体験サービス利用者数 : 971 人(29年度) → 1,350 人(30年度)		時代衣装着付け体験サービス利用者数 : 758 人	
一乗谷観光客入込数 : 80 万人(29年) → 110 万人(30年)		一乗谷観光客入込数 : 72 万人	
成 果 ・ 課 題	一乗谷観光客入込数については、旅行会社と連携した「一乗谷スカイランタン」の開催や、福井・永平寺・奥越エリアと連携した「御酒飲帳」事業をきっかけとする一乗谷への誘客など新しい取組を実施しましたが、2月の大雪災害、6月に関西を中心とした地震災害、7月の大雨災害及び夏場の連日の酷暑等、自然災害の影響を受け、目標を達成できませんでした。 来年度は、「御酒飲帳」事業を嶺北全域に拡大し、参加酒蔵を増やすとともに、新たな取組としてファミリー層や女性を対象とした体験型イベントの実施を通して、遺跡の魅力を高め、観光誘客を図ります。 引き続き、一乗谷朝倉特急バスの増便運行や一乗谷・東郷まち歩きに取り組むとともに、旅行会社への営業や商談会、北陸新幹線沿線都市での出向宣伝等で一乗谷の魅力を積極的にPRすることで、旅行商品造成につなげていきます。 環境整備及び管理としては、9月の台風により破損した復原町並の屋根や壁を修繕しました。 今後も、遺跡を後世まで保存するため、適切に維持管理していきます。		

15	「まちなか」への観光誘客	達成度	
実 行 内 容			
目 標	「ふくい桜まつり」や「福井フェニックスまつり」、春と秋の愛宕坂灯の回廊、県内全域で開催される「幕末明治福井 150 年博」などのイベントを活かしたまちなかへの観光誘客を推進し、交流人口の増加を目指します。また、北陸新幹線福井開業に向けて、桜まつり期間中の灯りの演出など、夜間景観の魅力向上にも積極的に取り組みます。 さらに、まちなかの観光における交通機能の充実のため、足羽山やグリフィス記念館、養浩館庭園等を結ぶ「まちなか観光周遊バス」を運行し、福井駅を基点としたまちなかの周遊を促進します。 足羽山については、新鮮な情報を引き続きホームページやSNSで発信するとともに、市民と協働して足羽山の魅力を伝えるイベントを開催して、誘客を推進します。		
取 組 内 容	○ふくい桜まつり 3/31～4/15 入込数 226,000 人 ・越前時代行列 4/14 入込数 70,000 人 ・足羽川桜並木ライトアップ 3/31～4/15 ・福井駅西口さくら色ライトアップ 3/31～4/15 ・九十九橋ライトアップ 4/14～4/15 ○春の愛宕坂灯の回廊 3/31～4/15 入込数 3,966 人 ○ふくいまちなか観光周遊バス運行 4/21～11/25（土日祝日に1日9便運行） ○幕末明治福井 150 年博 3/24～11/30 ・市内観光文化施設において、福井の先人に関する特別展を開催 ・すまいるバスの活用（車体ラッピング、車内へポスター・チラシの掲出） 9/6～11/4 ・冊子「福楽」福井市特集（幕末関係の記事）掲載（9月発刊） ○福井フェニックスまつり 8/3～8/5 入込数 140,800 人 ○足羽山イベント開催 ・足羽山アソブ School 7/14 参加者 20 人 ・ヒミツの足羽山探検キャンプ 8/4～8/5 参加者 20 人 ・足羽山コドモとアソブ大博覧会 10/27～11/8 参加者 687 人 ・足羽山アソブセッション 3/3 参加者 60 人 ○ふくいまち旅博覧会の実施 期間：9月28日～10月16日、6メニューを実施、参加者 53 人		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
まちなか観光客入込数 ： 153 万人（29 年）→ 159 万人（30 年） 観光案内所案内人数 ： 72,780 人（29 年度） → 75,000 人（30 年度）		まちなか観光客入込数 ： 186 万人 観光案内所案内人数 ： 83,580 人	
成 果 ・ 課 題	まちなか観光客入込数については、「ふくい桜まつり」「福井フェニックスまつり」「愛宕坂灯の回廊」など季節ごとのイベント開催、ふくいまち旅博覧会での、まち歩きを含めた様々な体験プログラムの実施、「足羽山アソブ School」など市民協働による足羽山を舞台とした各種イベントの開催、そのほかハピリンでのイベント開催など、まちなかへの誘客に努め、まちなか観光客入込数は大きく伸びました。 観光案内所は、国体開催により秋以降の利用人数が伸びました。今後とも、より丁寧で質の高い観光案内の提供を目指していきます。 来年度には、第 32 回宇宙技術および科学の国際シンポジウム（ISTS）が開催され、国内外から多くの研究者が訪れることから、おもてなしの心で本市の魅力をアピールするとともに、本市の魅力を全国に発信し、観光誘客につなげます。		

16	「越前海岸」への観光誘客	達成度	
実 行 内 容			
目 標	北陸新幹線福井開業に向け、越前海岸の伝統行事や風習、越前がに、水仙畑をはじめとする四季の風景を撮影し、プロモーション動画やポスターを作成することで越前海岸の魅力を情報発信するとともに、海開きにあわせた集客イベントを実施して、越前海岸への誘客につなげます。 また、地域で観光のまちづくりに取り組む団体を支援し、若者と連携することで、越前海岸の豊富な地域資源を活かした体験交流型観光メニューの造成に引き続き取り組みます。 さらに、日本海ならではの景観や新鮮な食、伝統行事などは、周辺市町と連携した取組を行うことで、越前海岸エリア全体の魅力向上につなげていきます。		
取 組 内 容	○鷹巣海水浴場誘客イベント（ハマグリを放流し、ハマグリ採りを楽しむイベント） ・7/10～8/20 入込数 36,700人 ○鷹巣観光地引網 6月～8月上旬 4回実施 220人参加 ○越前海岸盛り上げ隊 体験メニューの作成及びイベント実施、SNS等を活用した情報発信 ○チラシ配布：JR長野駅 5/11～5/12 ○越前海岸海水浴ポスター・リーフレット作成 ○越前水仙魅力向上事業（6月～2月） ○ふるさと越廼「春夏秋冬」物語事業（4月～3月） ○出向宣伝などでの営業等（東京、結城、美濃、大宮、越谷、熊本） ○水仙まつり（12/15～1/21：福井会場 12/15、16） ・福井市、越前町、南越前町の3市町による合同出向宣伝（東京、大阪、名古屋） ・ポスター・パンフレットの掲出		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
越前海岸の体験交流型観光メニュー数 ： 5個（29年度）→ 6個（30年度） 越前海岸観光客入込数 ： 46万人（29年）→ 53万人（30年）		越前海岸の体験交流型観光メニュー数 ： 6個 越前海岸観光客入込数 ： 41万人	
成 果 ・ 課 題	越前海岸全体の観光客入込数は、かにや水仙シーズンである冬場の大雪による影響や、夏場の連日の酷暑及び、国道305号線のがけ崩れ等により減少しました。 ガラガラ山越前水仙の里キャンプ場の利用者数は、絶景のロケーションやアウトドア志向の高まりにより増加しています。 越廼地区の観光素材を撮影したプロモーション動画の作成に取り組んでおり、今後は作成した動画を活用し、情報発信に努めます。また、福井農林高校と連携した水仙魅力向上事業にも取り組み、水仙の魅力向上を図っています。 越前海岸の体験交流型観光メニュー数については、越前海岸盛り上げ隊による越前海岸ならではの素材を活かした「ナイトシュノーケル」「たこかご漁」「武周ヶ池沢登り」といった体験イベントに加え、民間事業者による体験イベントの掘り起こしを行い、越前海岸全体での体験交流型観光メニューの充実を図りました。来年度も引き続き、越前海岸盛り上げ隊と連携した体験交流型観光メニューの更なる充実にも努めます。		

VI. (II) 福井の魅力を磨き、市民や観光客が福井の魅力にふれる機会を増やします

17	おもてなしの心の醸成	達成度	
実 行 内 容			
目 標	本市を訪れる多くの観光客が「再び訪れたい」と思うような観光のまちづくりを進めるため、おもてなしの心の醸成や観光関連事業者等の資質向上を図り、観光客を温かく親切に迎える「観光おもてなし市民運動」を市民総ぐるみで進めます。 今年は福井国体・障スポ大会が開催されるため、国体に関わるボランティアの方やタクシー乗務員の方を対象とした講習会や研修会を行います。また、おもてなし運動推進の牽引役となる「観光おもてなしマイスター」向けの研修も実施し、マイスターの観光知識及びお客様対応力のレベルアップを図ります。 さらに、春から秋にかけて「幕末明治福井 150 年博」が開催されるため、歴史ボランティア「語り部」の活動を引き続き支援するとともに、新たなガイドルートを開発し、市民や観光客がガイドとともに名所旧跡を気軽に訪れて、福井の歴史を学ぶことができる機会を増やします。		
取 組 内 容	○おもてなしの取組み ・観光おもてなし市民運動推進会議（5/15） ・おもてなし講習会（国体ボランティア）（8/26、8/28）全 3 回 889 人受講 ・タクシー乗務員おもてなし接客術研修（8/31）全 2 回 17 社から 24 人受講 ・観光おもてなしマイスター実践力向上研修 - 観光地研修（10/23）14 人受講 - 接遇・ワークショップ研修（10/31、11/1）全 2 回 20 人受講 ・観光おもてなしマイスター認定研修（11/12） ・観光おもてなしマイスター認定試験（12/14） ・観光おもてなし市民運動推進会議（2/18） ・観光おもてなし市民運動推進大会（3/3） ○歴史ボランティアバンク「語り部」の支援 ・語り部研修：まち歩き 20 回、座学 18 回		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
福井市を訪れて良かったと感じた人の割合 ： 92.4%（29 年度）→ 93.0%（30 年度） 「語り部」による案内人数 ： 11,100 人（29 年度）→11,200 人（30 年度）		福井市を訪れて良かったと感じた人の割合 ： 93.4% 「語り部」による案内人数 ： 10,512 人	
成 果 ・ 課 題	おもてなしの心の醸成として、国体ボランティア従事者を対象としたおもてなし講習会を国体企画室と連携して実施し、889 人の方が受講しました。また、福井を訪れた人が最初に接する機会の多いタクシー乗務員の接客力向上のため、市内全てのタクシー会社の参加のもと、県タクシー協会と連携した研修会を実施しました。 「観光おもてなし体験だより」で寄せられる意見のうち、福井市を訪れて良かったと感じた人の割合は、昨年に引き続き 9 割を超えました。北陸新幹線福井開業に向け、市民運動の牽引役となる「おもてなしマイスター」の更なるレベルアップを図る研修を新たに実施するとともに、今後も、交通事業者や観光事業者を対象とした講習会や研修会、観光おもてなし市民運動推進大会でのまごころのこもったおもてなし事例の表彰などにより市民のおもてなしのレベルアップと観光おもてなし市民運動の更なる浸透を図っていきます。 「語り部」については、観光客が訪れる機会の多い桜の開花前や国体前に臨時研修を実施し、知識の習得やおもてなしの心の醸成に努めました。国体会期中には、北の庄資料館にガイドを常時駐在させ、来館者への案内を実施しました。今年度は夏場の猛暑や秋の台風などの影響により目標を下回りましたが、今後も「語り部」を支援し、案内人数の増加に取り組みます。		

18	観光施設の整備	達成度	
実 行 内 容			
目 標	足羽川桜並木などの観光地の美化や、観光トイレなどの施設を安全・快適に利用してもらうための維持管理に努めます。併せて、観光トイレの洋式化を進めます。 また、美山森林温泉みらくる亭・鷹巣荘については、事業見直しに伴い、民間譲渡の検討を行います。		
取 組 内 容	○足羽川堤防桜並木 延命保全対応 ○観光トイレの整備（洋式化） ・3月 1カ所実施（大安寺観光トイレ） ○民間譲渡の検討（美山森林温泉みらくる亭・鷹巣荘） ・10月 地域プラットフォームへの参加（10/29） ・11月 利用者アンケートの実施（11/15～11/30） ・10～11月 第1回サウンディング型市場調査（現地説明会：10/18、10/22、調査日：11/22） ○美山森林温泉みらくる亭第4期指定管理者の指定 ・12月議会		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
観光トイレの整備 ： 1カ所 美山森林温泉みらくる亭、鷹巣荘の民間譲渡の検討		観光トイレの整備 ： 1カ所 美山森林温泉みらくる亭、鷹巣荘の民間譲渡の検討	
成 果 ・ 課 題	足羽川堤防の桜並木について、施肥、防腐剤散布や樹木の若返りを目的とした強剪定を行いました。また、ふくい桜守の会と連携し、桜まつり期間中に保全活動のための寄付を募ると同時に、福井駅周辺の店舗に前年度に剪定した枝を配布し、桜の花で彩りをそえました。 また、観光客の利便性を高めるため、大安寺駐車場に隣接する観光トイレの洋式化に取り組みました。来年度も行楽シーズンに配慮しながら、環境整備を進めます。 美山森林温泉みらくる亭、鷹巣荘の民間譲渡の検討については、サウンディング型市場調査の参加事業者からの具体的な提案により、市場性を確認しました。来年度は、施設マネジメントアクションプラン策定の中に民間譲渡の方向性を位置づけます。		

VII. (III) 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

19	観光情報の発信	達成度	
実 行 内 容			
目 標	観光パンフレット、テレビや新聞等の情報発信に加え、首都圏の駅で福井のPRポスターの掲出を行い、観光誘客を図ります。 また、ホームページやフェイスブックでの情報発信、フィルムコミッション事業によるテレビや映画などの撮影支援を通して、ふくいの魅力発信を行います。 県外での出向宣伝や営業では、イベント参加者や旅行会社、出版社に福井の旬な情報を提供するとともに、旅行関係事業者との人的ネットワークを構築することで、福井の認知度向上や旅行ニーズの把握、旅行商品の造成につなげます。特に首都圏での営業は、東京事務所と連携を密にして取り組みます。 さらに、福井市観光大使や福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」の積極的な活用により、福井の魅力的な観光資源を周知し、本市のイメージアップを図ります。		
取組内容	○観光パンフレット増刷 ○ポスター・パンフレット掲出 ・ポスター掲出（掲出駅：JR大宮駅 掲出期間：1週間 11/26～12/2） ・パンフレット掲出（市内宿泊施設、観光施設、観光案内所など） ○フェイスブックなど 「いごこち満点！ふくい」「朝倉ゆめまる」の運用 ○フィルムコミッション 問合せ54件、撮影実績34件（2月28日時点） ・全国ふるさと甲子園への参加（8月25日） - 映画「えち鉄物語～わたし、故郷に帰ってきました。～」とグルメ「えちてつで巡る福井の銘酒」で出店。 ・TBS テレビドラマ「チア☆ダン」福井県内でロケ実施。 ○出向宣伝、旅行会社や出版社への営業、商談会への参加 158回（東京、大阪、名古屋など） 出向宣伝：ふくい桜まつり、一乗谷のPR等（東京、茨城、熊本、長野、美濃、大宮、鎌倉、京都） ○福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」の活用 出動件数147件（2月27日時点） 内容：ハピリンで開催のイベント、えちぜん鉄道福井駅舎完成記念式典、小学校訪問（ゆめまる給食）、フェニックスまつり、越前朝倉戦国まつり、朝倉トレイルラン、福井国体イベント、年賀はがき販売記念イベント、和風マスコットサークル「きゃわ和」への参画 など		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
観光関連新聞記事の掲載面積		観光関連新聞記事の掲載面積	
： 62,425 cm ² （29年度）→ 63,000 cm ² （30年度）		： 66,725 cm ²	
出向宣伝や旅行会社への営業、商談会への参加		出向宣伝や旅行会社への営業、商談会への参加	
： 204回（29年度）→ 150回（30年度）		： 158回	
朝倉ゆめまるフェイスブックでの情報発信回数		朝倉ゆめまるフェイスブックでの情報発信回数	
： 188回（29年度）→ 190回（30年度）		： 192回	
成果・課題	福井市宣伝隊長「朝倉ゆめまる」を活用した観光情報発信としては、県内イベントへの出演に加え、養浩館庭園などの観光地の紹介、越前がになどの福井の食、福井国体関連情報などについて、フェイスブックを活用した発信により、朝倉ゆめまる及び本市のイメージ向上に努めました。 また、福井の四季折々の情景を切り取った「つるつるいっぱいFUKUI CITY」のポスターを、北陸新幹線沿線都市の駅構内において、インパクトの大きい5連貼りにて掲出し、誘客に努めました。 そのほか、旅行会社や出版社への営業、県外への出向宣伝、観光施設への観光パンフレット掲出など、様々な機会を捉えて福井の魅力発信に努め、雑誌等への掲載や旅行商品造成に繋げました。 来年度は、フェイスブックやインスタグラムなどSNSによる情報発信を継続して実施するとともに、連携中枢都市圏内の他市町との連携強化により、観光客や旅行会社などに向けた更なる情報発信に取り組んでいきます。		

Ⅷ. (Ⅳ) 多文化共生の地域づくりに取り組むとともに、インバウンド誘客の強化を図るための環境を整備し情報発信を進めます

20	国際交流の活用と多文化共生のまちづくり	達成度	
実 行 内 容			
目 標	市やふくい市民国際交流協会が行う姉妹友好都市交流事業や多文化共生事業を通して、市民の国際理解を深め、日本人市民も外国人市民も安心して暮らせる地域づくりを進めます。 また、福井市国際文化交流大使（FCA）が、準備の段階からイベントやまつりに参加するなど、地域との交流を通して国際理解を進めるとともに、観光資源の取材も行いながら、SNSにより本市の魅力を国内外に発信していきます。		
取 組 内 容	○福井市国際文化交流大使（FCA）事業 ・公私立の保育園、幼稚園、認定こども園で国際理解教室を開催（通年） ・SNSでの市の魅力情報発信（通年） ・ニューブランズウィック市、フラトン市から各1人ずつ計2人を採用（8月1日） ○杭州市行政訪問団を受入れ（5月28日～30日） ○福井市行政訪問団を杭州市へ派遣（11月17日～20日） ○水原市ジュニア大使を受入れ（1月11日～16日） ○福井市多文化共生推進プラン ・グローバルフェスタ（多文化祭）開催（5月26日） ・福井市防災訓練への外国人参加促進 足羽地区で実施（6月24日） ・災害時外国人支援サポーター養成講座（7月14日） ○市職員等を対象に多文化共生に関する研修を実施（1月28日） ○ニューブランズウィック市へジュニア大使を派遣（3月18日～25日）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
市及びふくい市民国際交流協会が実施する国際交流事業等への市民の参加者数 ： 5,980人（29年度）→ 6,100人（30年度） 〈内訳〉国際交流・多文化共生事業の参加者数 ：5,183人（29年度）→ 5,200人（30年度） ジュニア大使派遣・受入事業の参加者数 ：797人（29年度）→ 900人（30年度） 福井市国際文化交流大使の地域活動等派遣 ： 5地区		市及びふくい市民国際交流協会が実施する国際交流事業等への市民の参加者数 ： 6,141人 〈内訳〉国際交流・多文化共生事業の参加者数 ：5,209人 ジュニア大使派遣・受入事業の参加者数 ：932人 福井市国際文化交流大使の地域活動等派遣 ： 6地区	
成 果 ・ 課 題	国際交流事業等への市民の参加者数等については、29年度からハピテラスで実施している「グローバルフェスタ」でさらに多くの市民参加が得られたことなどにより、目標を達成しました。 杭州市とは、行政訪問団の相互派遣を実施し、31年度に予定されている友好都市提携30周年記念事業に向けた打ち合わせを行いました。記念事業では、杭州市にて本市の観光・物産PRの実施も計画しており、観光を通じた人的交流や経済交流の拡大を図ることで、日中相互の市民の異文化理解、交流を推進します。 FCAは、今年度から地域活動に加わり、打ち合わせ段階から各種イベントやまつりに参加して交流を深め、地域での国際理解を進めるとともに、そこでの体験や自然などの、SNSを使った本市の魅力情報発信にも取り組みました。 4月の改正入管法の施行により、今後さらに外国人市民が増加する可能性があり、多文化共生推進プランにおける施策等を関係各課と情報共有、連携しながら継続して取り組んでいきます。		

VII. (III) 様々なツールによる情報発信を行い、福井の知名度やイメージの向上に努めます

21	インバウンド誘客の強化	達成度	
実 行 内 容			
目 標	外国人観光客を本市に呼び込むため、親日家が多く、訪日リピーター率も高い台湾とタイを対象に旅行博への出展や営業活動を行うとともに、日本文化への関心が高いフランスにおいても、クレアパリ派遣職員と連携して、ジャパンエキスポ・パリへの出展をはじめ、営業活動や情報発信を行います。 また、個人旅行化が進み、WEBでの情報収集が主流となっている現状をふまえ、台湾でよく利用されている観光情報サイトで情報発信を行い、本市の知名度を向上させ、誘客につなげます。 あわせて、外国人観光客の受入環境を整備するため、通訳ボランティアの育成や、市内事業者のメニュー、パンフレットの外国語表記支援に取り組みます。		
取 組 内 容	○台湾誘客 ・福井県台湾商談会（参加旅行会社 39 社）、台中・台南・高雄市内旅行会社営業 8 社（5/29～6/1） ○ヨーロッパ圏誘客 ・フランステレビ局「アルテ社」番組撮影アテンド（4/7～10） ・ジャパンエキスポ・パリ出展（7/5～8） ○市内宿泊事業者周り ・県広域誘客課と連携し、観光庁の宿泊統計調査への協力、海外宿泊予約への登録促進及び外国人の受入環境の整備等の依頼。 ○海外の旅行会社等との連携 ・クレア派遣職員や海外旅行会社と情報交換等を行い連携を図りながら、インバウンド推進を行った。 ○多言語対応ガイド人材育成事業（全 3 回 9/24、11/10、12/2） ○おもてなし英語通訳ボランティア育成事業（全 4 回 10/27、11/17、12/8、2/16） ○通訳ボランティアスキルアップ研修（全 3 回 1/26、2/23、3/9）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
外国人宿泊者数（市調査） ： 15,800 人（29 年）→16,500 人（30 年） 通訳ボランティア育成事業の参加者数 ： 156 人（29 年度）→ 160 人（30 年度）		外国人宿泊者数（市調査） ： 22,800 人 通訳ボランティア育成事業の参加者数 ： 161 人	
成 果 ・ 課 題	インバウンドについては、台湾をターゲットに現地商談会への参加、営業活動を行いました。 併せて、ヨーロッパ誘客を目的としてフランスで開催されたジャパンエキスポ・パリへ 2 年連続でブース出展を行い、現地にて福井の観光地や伝統工芸などを紹介しました。 また、去年のジャパンエキスポ出展をきっかけに、4 月に養浩館や一乗谷など本市にて現地のテレビ番組の撮影が行われました。 来年度については、台湾を主なターゲットとした旅行博への出展、現地商談会への参加や旅行会社への営業活動を行うとともに、WEBでの旅行情報収集が主流となっている現状を踏まえ、現地でよく利用されている観光情報サイトでの情報発信を行います。 さらに、外国人観光客の受入環境を整備するため、通訳ボランティアの育成や、市内事業者のメニュー、パンフレットの外国語表記支援や無線 LAN 環境整備の支援に取り組みます。		

IX. (V) 文化芸術活動を支援するとともに、文化や歴史、自然を活用した観光誘客を進めます

22	文化芸術活動の交流促進と文化会館の再整備	達成度	
実 行 内 容			
目 標	市民が文化的な環境の中で生きる喜びを見出せるよう、文化会館等での芸術鑑賞や体験事業の充実を図るとともに、本市のさらなる文化振興に向け、各種文化団体の活動を支援します。 福井市民文化祭では、主催である福井市文化協会と連携し、人気が高い体験コーナーの充実や子ども展示コーナーの設置、広報の強化により、市民が文化芸術に出会い親しめる機会を増やすとともに、文化活動の交流を促進します。 また、文化芸術活動の拠点施設である文化会館の管理・運営を適切に行います。		
取 組 内 容	○文化活動の支援 ・第29回童謡の日さわやかコンサートの実施(7月7日 来場者：1,084人) ・文化協会「絵画教室 養浩館庭園を描く」 小4～中3対象(7月25日 参加者：13人) 大人対象(8月12日 参加者：13人) ・文化協会「子どもお茶席体験講座」(10月19、26、31日 参加者：3小学校 48人) ・文化協会「福井市民文化祭」(11月3、4日 参加者：5,558人) ・文化奨励賞授与式(11月3日 受賞者：1人) ○文化会館 ・自主事業(指定管理者) 「Crescendo! 福井市吹奏楽コンサート」(10月7日 参加者：565人) 「ピアノを分解!?しちゃいます」(文化会館50周年記念事業)(11月17日 参加者：240人) 「第九を歌う会」(12月23日 参加者：1,100人) 「人形語りと音、舞、踊り 五十年目の化粧」(文化会館50周年記念事業) 		

23	まちなか文化施設の魅力向上と情報発信	達成度	
実 行 内 容			
目 標	養浩館庭園では、地元住民やボランティア、関係団体との協働により、御茶席や伝統文化をテーマとした体験事業、気軽にくつろいでいただくための庭カフェ開設、夜間のライトアップなどを実施し、庭園の魅力向上を図ります。 橘曙覧記念文学館と愛宕坂茶道美術館では、「幕末明治福井 150 年博」に合わせ、橘曙覧や松平春嶽、橋本左内等を紹介する特別展や、ゆかりの地を巡るガイドツアーや歴史講座等を開催し、福井の魅力を発信します。 グリフィス記念館では、前年度作成した「グリフィス御伽噺」を活用した朗読会や、化学遺産に認定されたグリフィスの講義録「化学筆記」に関する展示など、グリフィスの功績を知ってもらう事業を実施し観光誘客を図ります。併せて、記念撮影会等での利用促進を図ります。 また、旅行会社等への施設やイベント等のPRを強化することで観光誘客を図ります。		
取 組 内 容	○養浩館庭園 ・春・秋のお茶席（4～5月、9～11月 38日間 参加者：1,981人） ・特別茶会（12月1日、1月4日、3月2日 参加者：217人） ・特設茶席/旅行会社企画ツアー等（参加者：405人） ・秋のライトアップ（9月28日～11月25日の金土日祝・祝前日 入園者：1,251人） ・庭カフェ（4月2日～4月20日の平日限定 13日間 参加者：391人） ・旅行雑誌等への掲載 16回 ○愛宕坂茶道美術館 ・企画展「茶の湯花鳥風月」（4月26日～7月29日 観覧者：2,113人） ・企画展「太田垣蓮月さんのはんなり茶道具」（8月1日～10月29日 観覧者：2,384人）※ ・企画展「漆芸をたのしむ」（11月1日～2月25日 観覧者：2,068人） ・企画展「春のもてなし」（3月1日～5月20日） ○橘曙覧記念文学館 ・企画展「曙覧のおもかげ」（5月17日～9月24日 観覧者：2,199人）※ ・特別展「独楽吟ー150年後へのメッセージ」（9月28日～12月9日 観覧者：1,656人）※ ・企画展「江戸の老い」（12月13日～3月3日）、企画展「作家と犬」（3月7日～5月12日） ・講演会「曙覧の子孫大集合」（8月4日 参加者：58人）※ ・橘曙覧史跡めぐり（①6月24日、②10月27日 参加者：①35人、②35人）※（①、②とも） ○グリフィス記念館 ・音楽会（4月7・14日 参加者：98人） ・朗読会（7月5・7・8日、10月8日、12月8日 参加者：190人） ・企画展「外国人がおどろいた！幕末維新期の日本人」（5月26日～7月1日 観覧者：1,311人）※ ・企画展「グリフィスが語る明治維新」（9月8日～10月5日 観覧者：822人）※ ・企画展「アメリカに眠る志士たち」（2月23日～3月24日 観覧者：762人） ○その他 幕末明治 150 年記念歴史講座「異説で読み解く明治維新」（9月1日 参加者：370人）※ （※印は、幕末明治福井 150 年博関連事業）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
文化施設入場者数 ： 96,094 人（29 年度）→113,190 人（30 年度） 幕末明治福井 150 年博関連事業開催数 ： 5 回		文化施設入場者数 ： 94,960 人 幕末明治福井 150 年博関連事業開催数 ： 9 回	
成 果 ・ 課 題	文化施設の入場者数は幕末明治福井 150 年博関連イベントなどにより誘客に努めましたが、夏場の猛暑や秋の台風などの影響により、昨年度より 1,134 人の減少となりました。 養浩館庭園では、旅行会社の企画等による特別茶会への参加者が大幅に増加しました（274 人→405 人）。またグリフィス記念館では、結婚式の撮りなど撮影スポットとしての利用を写真館などにPRし、貸室件数が前年度比約 3.5 倍（9 件→32 件）になりました。 入館者数が減少した愛宕坂茶道美術館では、新年度に開館 20 周年を迎えることから、記念講演会や特別展を実施し、入館者数の増加を図ります。 さらに、SNS を活用し観光文化施設の最新情報を広く発信し、さらなる誘客に努めます。		

24	美術館企画展等の開催	達成度	
実 行 内 容			
目 標	世代を超えて気軽に芸術に親しめるよう、分野・時代・地域など美術の多様性を活かした魅力ある企画展を開催します。各企画展では、展覧会内容に応じた講演会や作品解説会はもちろん、体験型ワークショップ等の関連イベントを多数開催し、その内容を深く理解し楽しめるようにするとともに、文化施設や関連した企業等と連携しながら広域的に情報発信を図り、観光誘客に努めます。 また、アトリエ事業では、いつでも気軽に創造的な活動が行えるよう、生活と密着した創造性を養う新しいプログラムを開発して、子どもから高齢者までが楽しめる機会を提供します。 さらに、本市の美術文化の向上を図るため、「市美展ふくい」の開催や、各種団体に展示室等の貸出を行い、市民が芸術活動を発表できる機会を提供します。		
取 組 内 容	○「漫画界のレジェンド 松本零士展」 9,862人 6月2日～7月8日 32日間開催 ○「歌川広重の世界展」 21,335人 7月21日～9月2日 39日間開催 ○「ナショナル ジオグラフィック写真展」 10,590人 9月15日～11月4日 44日間開催 ○「画家たちの自画像展」 4,527人 平成31年2月23日～3月31日 31日間開催 ○子どもアトリエ 9講座開催 ①4月29日 ②6月24日 ③7月29日 ④8月5日 ⑤9月17日、22日 ⑥10月14日 ⑦11月4日 ⑧12月9日 ⑨3月9日、10日、24日 ○市民アトリエ 9講座開催 ①4月30日 ②6月17日 ③7月15日 ④8月26日 ⑤9月9日 ⑥10月21日 ⑦11月11日 ⑧12月16日 ⑨1月～3月（8日間） ○第31回市美展ふくい 5月18日～27日 3,377人 10日間開催		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
企画展入場者数 ： 22,410人（29年度） → 64,000人（30年度） 子どもアトリエ開催数 ： 9講座 市民アトリエ開催数 ： 9講座 市美展ふくい開催 ： 5月 総入館者数 ： 67,532人（29年度） → 96,000人（30年度）		企画展入場者数 ： 46,314人 子どもアトリエ開催数 ： 9講座 市民アトリエ開催数 ： 9講座 市美展ふくい開催 ： 5月 総入館者数 ： 95,114人	
成 果 ・ 課 題	企画展では、「宇宙」、「旅」、「自然」、「人」とテーマを設定し、内容を明確にした4つの企画展を実施しました。会場内には写真撮影コーナーの他、展示作品の人気投票や学芸員のおススメ作品のポップ掲示などを新たに設置し参加型企画を取り入れました。また、会期中の土日には、作品解説会やコンサートなどの関連イベントやセーレンプラネットなど文化施設との連携企画を多数開催しました。さらに、初の試みとして県立美術館との共通券の発行や両館学芸員の対談会などを行った結果、過去3年を上回る入場者数となりました。しかし、土日の賑わいと比較して平日が伸び悩み、また夏の高温気象の影響を受けたことなどにより、目標には達しませんでした。 アトリエでは、「悪路を走るリモコンマシンをつくろう」等の大変好評な講座が多数あり、市美展ふくいでは、昨年に引き続き、小さな作品展や体験コーナーを設け、ともに目標を達成しました。 総入館者数は、企画展の関連等各種イベントの増や、いつでも体験できるアトリエの活動内容を増やしたこと、また展示室の貸出件数が増えたことなどから昨年度より増加となりましたが、目標には達しませんでした。 来年度は、陶器や書画、浮世絵の企画展で、高齢者を主とした平日の入場者増に努め、夏から秋にかけてデジタル機器を多用した参加体験型の企画や遊び心溢れるキャラクター原画の企画展による、親子連れや県外からの誘客を図ります。また、各種イベントの更なる充実と情報発信を行い、市内文化施設等との連携も強化して目標達成を目指します。		

25	郷土歴史博物館企画展等の開催	達成度	
実 行 内 容			
目 標	郷土の歴史や文化への誇りを育み発信できるよう、文献・考古・美術史という様々な分野から地域の歴史や文化に関わりの深いことや明治 150 年に関連するテーマで、魅力ある企画展を開催します。また、SNS を活用しての情報発信を行うとともに、福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会文化プログラム事業に参加するなど、広報に努めます。 養浩館との連携はもちろん市内の文化施設との連携や、教育普及活動の充実に努め、福井の歴史や文化を楽しく学ぶ機会を提供することで、まちなかの観光の推進につなげます。		
取組内容	○春季特別展「江戸・京・大坂と城下町福井」 9,968 人 3 月 24 日～5 月 6 日 43 日間開催 内、30 年度 8,489 人 35 日間開催 ○夏季特別陳列「幕末福井の偉人たち」 4,622 人 7 月 20 日～8 月 26 日 37 日間開催 ○秋季特別展「皇室と越前松平家の名宝ー明治美術のきらめきー」 11,530 人 9 月 22 日～11 月 4 日 42 日間開催 ○春季特別展「大安禅寺の名宝」 平成 31 年 3 月 21 日～ 5 月 6 日 46 日間開催 内、30 年度 1,424 人 11 日間開催 ○ギャラリートーク 35 回（江戸・京・大坂と城下町福井 3 回、幕末福井の偉人たち 3 回、皇室と越前松平の名宝 9 回、大安禅寺の名宝 2 回、松平史料展示室 18 回） ○資料審査委員会（平成 31 年 3 月 6 日） 審査資料件数 64 点 ○ワークショップ らくらくこども博物館（春休み、夏休み、冬休みの計 23 回開催）、夏休み歴史体験教室 11 回開催、三角縁神獣鏡チョコ作りワークショップ（4 回開催）、へんしん越前屋（土・日・祝・振休と春・夏・秋・冬休み）、親子でミュージアム（文化施設体験連携事業） ○講座等 ミュージアムカレッジ（8 回開催）、企画展関連講座・イベント（10 回開催）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
企画展入場者数 ： 23,782 人（29 年度） → 24,700 人（30 年度） 特別展・企画展ギャラリートークの回数 ： 32 回（29 年度）→ 33 回（30 年度） 総入館者数 ： 72,227 人（29 年度） → 79,600 人（30 年度） 収蔵資料数 ： 40,984 点（29 年度） → 41,000 点（30 年度）		企画展入場者数 ： 26,065 人 特別展・企画展ギャラリートークの回数 ： 35 回 総入館者数 ： 84,810 人 収蔵資料数 ： 41,048 点	
成果・課題	企画展入場者数については、幕末明治 150 年博関連の企画展や関連行事の開催、県と共同してスタンプラリーなどの誘客サービスを実施したことに加え、長くブームの続いている城郭に関わるテーマの展示が好評であったことから、多くの方に来館していただき目標を達成できました。 次に総入館者数については、企画展の PR や県内大学や近隣自治体などへの営業など、積極的な広報活動に努めた結果、目標を達成することができました。 ギャラリートークと収蔵資料についても、計画通り進捗できたことにより目標を達成できました。 来年度は改元など全国的な出来事にまつわるテーマや市内の文化財に関連した内容など注目度の高い展示に加え、自然史博物館や美術館とワークショップをはじめとした合同イベントを開催して誘客に努めます。		

26	自然史博物館企画展等の開催とセーレンプラネットの運営	達成度	
実 行 内 容			
目 標	郷土の豊かな自然や広大で未知な宇宙・天文について県内唯一の自然科学の総合博物館として興味深く学べる機会を提供し、自然科学への関心を高めてもらえるよう、魅力ある企画展を開催します。 また、子どもたちが、最先端の研究をしている大学や企業等を訪問し、自然科学が社会に貢献していることを学ぶキャリア教育の機会を提供します。 自然史博物館では、足羽山魅力向上計画の一環として足羽山を訪れる市民や観光客の満足度を高めるためビジターセンターを福井国体・障スポの開催に合わせ整備します。ビジターセンターは、足羽山の自然、文化、歴史のほか飲食店、イベントなどの様々な情報を提供します。また、本館屋上の白山テラスは白山や市街地の眺望を楽しめる休憩スペースとして活用します。 さらに、博物館の耐震化、バリアフリー化は、平成 32 年度の完成を目指して、今年度は本館建物の構造計算や整備内容の検討を進めていきます。 セーレンプラネットでは、ドームシアターを活用した魅力的なコンテンツの提供に努め、ハピリンや周辺施設、交通事業者等とイベント等での連携を進めることで、中心市街地のにぎわい創出や観光誘客につなげます。		
取 組 内 容	○企画展の開催（本館） ・高浜の化石～1600 万年の時を超えた大地の語り部～（3 月 17 日～5 月 20 日）（年度内 3,882 人） ・世界の大むしむし展 2～世界の、福井の昆虫大集合！～（7 月 21 日～9 月 2 日）（11,504 人） ・吉澤特別館長の写真展 東尋坊・雄島・越前松島の魅力（9 月 29 日～1 月 29 日）（4,870 人） ・色彩の自然史-人々が自然の中から見つけ出した色-（3 月 23 日～6 月 2 日）（年度内 408 人） ○企画展の開催（セーレンプラネット） ・月へ行こう！（3 月 13 日～4 月 9 日）（年度内 228 人） ・七夕の世界（6 月 9 日～7 月 8 日）（895 人） ・火星探検に行こう！（7 月 13 日～9 月 2 日）（3,045 人） ・宇宙国体（9 月 28 日～10 月 29 日）（1,066 人） ・時間旅行展-TIME! TIME! TIME!（11 月 23 日～1 月 20 日）（262 人） ・「星の風景」日本星景写真協会写真展（2 月 22 日～3 月 31 日）（1,261 人） ○企業等訪問 ・宇宙関連企業・施設訪問ツアー（8 月 22、24 日 ISTS 福井大会に向けた地元事業）（50 人） ・J A L 航空教室（3 月 24 日）（60 人） ・福井の研究の最先端に触れよう（3 月 29 日 福井県立大学訪問）（10 人）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
自然史博物館入場者数 ： 20,491 人（29 年度）→ 26,000 人（30 年度） セーレンプラネット入場者数 ： 95,126 人（29 年度）→127,000 人（30 年度） 企画展入場者数 ： 25,281 人（29 年度）→27,000 人（30 年度） 産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数 ： 108 人（29 年度）→110 人（30 年度）		自然史博物館入場者数 ： 26,050 人 セーレンプラネット入場者数 ： 107,047 人 企画展入場者数 ： 27,421 人 産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数 ： 120 人	
成 果 ・ 課 題	自然史博物館入場者数は、9 月に足羽山ビジターセンターがオープンしたことで、新たな利用者が増えたことや、自然史講座、標本同定会、天体観望会等市民のニーズに合わせた様々な行事による集客、特別展の好調により目標を達成しました。 セーレンプラネット入場者数は、移動天体観望会や美術館、郷土歴史博物館との連携した取組による知名度の向上や、テレビ、雑誌、ウェブ等メディアへの広報活動により、指定管理者への要求水準である 10 万人は達成しましたが目標値には至りませんでした。引き続き積極的な広報活動や、小中学校への営業活動、他文化施設との連携した活動を行なうとともに魅力ある展示や番組の放映に努めます。 企画展入場者数は、特に本館の「世界の大むしむし展 2」、吉澤特別館長の写真展「東尋坊・雄島・越前松島の魅力」が好調で目標を達成しました。 産学連携科学技術キャリア教育事業参加者数は、県内企業や大学への訪問の他、分館での J A L 航空教室の実施により目標を達成しました。		

27	観光と文化の連携強化	達成度	
実 行 内 容			
目 標	地域に埋もれている特色ある歴史・文化資源等を観光資源として活用するモニターツアーを実施します。 さらに、市内 11 の施設に入館、入園できる共通観覧券「ふくミュージアムパス」のさらなる周知と利用拡大に努めるとともに、歴史・文化資源を紹介する多言語対応のホームページやVTRを活用し、国内外へ福井の魅力を発信することで、観光誘客を図ります。 加えて、幕末明治福井 150 年記念展や出張博物館など、各施設合同による体験連携事業を実施します。		
取 組 内 容	○モニターツアーの実施 ・橘曙覧史跡めぐり～勝山編～（6月24日 参加者 35 人）※幕末明治福井 150 年博関連事業 ・橘曙覧史跡めぐり～三国編～（10月21日 参加者 35 人）※幕末明治福井 150 年博関連事業 ・ボランティアガイド養成ツアー@一乗谷朝倉氏遺跡（11月24日 参加者 8 人、12月8日 8 人） ○「ふくミュージアムパス」チラシの県内観光文化施設、公共交通機関への配架（5月 153 カ所） ○多言語動画サイトの開設（4月） ○多言語対応「福井市文化遺産紹介パンフレット」の作成（3月15日） ○各施設合同による体験連携事業 ・「特別名勝一乗谷朝倉氏庭園で短歌を詠もう」（8月17日 参加者 9 人） ・「博物館めぐりは、「ふくミュージアムパス」で！！」（11月17日 参加者 114 人） ・「一乗谷朝倉氏遺跡で刀鍛冶から学ぶ」（1月20日 参加者 17 人） ・博物館バックヤードめぐり「足羽山の博物館巡り」（3月23日 参加者 8 人） ・夜のギャラリートークと禅文化に触れる in 養浩館庭園（3月30日 参加者 19 人） ○幕末明治福井 150 年記念 ・愛宕坂茶道美術館 企画展「太田垣蓮月さんのはんなり茶道具」（8/1～10/29 2,384 人） ・橘曙覧記念文学館 企画展「曙覧のおもかげ」（5/17～9/24 2,199 人） 特別展「独楽吟ー150 年後へのメッセージ」（9/28～12/9 1,656 人） ・グリフィス記念館 企画展「外国人がおどろいた！幕末維新期の日本人」（5/26～7/1 1,311 人） 企画展「グリフィスが語る明治維新」（9/8～10/5 822 人）		
数 値 指 標			
目 標		結 果 ・ 成 果	
歴史・文化資源を活かしたモニターツアーの実施 ： 2 回（29 年度） → 3 回（30 年度） 体験連携事業の実施		歴史・文化資源を活かしたモニターツアーの実施 ： 3 回 体験連携事業の実施	
成 果 ・ 課 題	歴史・文化施設を活かしたモニターツアーを 3 回実施しました。 また、市内 11 の観光文化施設を巡ることができる「ふくミュージアムパス」については、周知を図るため、県内観光文化施設をはじめ、市内宿泊施設や公共交通機関等にチラシを配架しました。 観光文化施設が連携して実施した「特別名勝一乗谷朝倉氏庭園で短歌を詠もう」などのほか、体験連携事業を 5 回実施しました。 新年度は、ふくい嶺北連携中枢都市圏域内の市町と連携し、圏域内の魅力ある文化資源を発掘し情報発信するとともに、文化資源や文化芸術イベントを活用し観光誘客や交流人口の増加を図るなど、文化芸術の振興に取り組みます。		

